

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和 4年 8月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900530		
法人名	有限会社イツキケアサービス		
事業所名	ぐるーぷはうすなごみ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市東板持町3-15-5		
自己評価作成日	令和4年6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年8月29日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2774900530-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和4年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に」を理念に、住み慣れた自宅での暮らしに近づけるよう、ゆったりとした生活を心がけています。自発的・主体性を持って送れるよう見守り、支えあいながらお世話させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「ぐるーぷはうすなごみ」は2階建ての木造住宅を改修して事業所として活用している。1ユニット6名定員のこじんまりしたグループホームで、アットホームな雰囲気大切にしている。利用定員の規模が小さいため、小回りが利く環境であり、食事や外出等の様々な場面で、利用者の意向に応じたきめ細やかな支援に取り組んでいる。

「その人らしさを大切に自発的・主体性をもち支えあう」という運営理念を掲げ、「支援側が何でも手伝う」のではなく、「どうすればその利用者の能力を活用できるか」という視点で、利用者のできることを考えることが必要である」をモットーに、日々理念の実践に取り組んでいる。

コロナ禍にありながらも、日頃の散歩の他、月に1回程度は喫茶店や買い物等に出かけたりと、利用者の意向に沿いながら外出が楽しめるよう、できる限りの支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲げ、理念が目に入りやすい環境を作ると共に、理念に基づいた介護が実践できるように、管理者と職員が理念を共有、実践できるように、コミュニケーションを積極的に図り、相談事等があればしっかりと話を聞くと同時に、理念に立ち返りながら、日常の介護につなげている。	事業所理念は、職員がいつでも確認できるように玄関とリビングに掲示している。新人研修時に理念の説明を行う他、定例会議で理念について話し合う機会を設けている。「どうすればその利用者の能力を活用できるかという視点で利用者のできることを考えることが必要である」をモットーに、日々理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ発生以前は、地域の公園の草ひきやふれあい喫茶への参加や回覧板を利用者と回すなどの地域交流をしていた。現在は、感染対策可能範囲内で交流（散歩時にソーシャルディスタンスを確保した上で挨拶やちょっとした会話）している。	自治会に加入しているものの、現在はコロナ禍のため、地域との交流機会も激減し、ほぼ日頃の散歩の中で、近隣住民と立ち話をする程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生以前は町内会行事のお祭りや、公園清掃にも利用者と職員共に参加し、地域の方に、認知症の人の理解や支援の方法等を理解してもらうように努めていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍以前は2ヶ月に1回の開催をしていたが、面会制限の関係もあり、実施できない時には、書面にて意見聴取を行うなどの工夫をしながらサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回、利用者代表、法人代表、管理者が参加して開催している。外出先として行きたいところなど利用者のざっくばらんな気持ちを発言してもらえる場となっている。会議録は地域包括支援センターや民生委員に配布し、意見を聴き取っている。また、会議録は職員間で回覧する他、定例会議で話し合い、意見等をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>利用者様の各種申請や各種書類の提出。また、疑問点の相談等協力して頂いていると共に運営上必要な連絡を双方向で実施している。</p>	<p>令和4年6月に富田林市グループホーム交流会が1年半ぶりに開催された。ここでは富田林市独自の認知症施策「MEET☆とんだばやし」について話し合ったり、各事業所の空き状況や相談ごとなど市の担当者等との交流が図れる場となっている。市の担当者とは日頃は電話やメールなどで提出する書類等についての指示を仰ぐなど、必要な連絡を取り合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設の年間研修計画の中に組み込んでいる施設内研修で身体拘束について学ぶと同時に、身体拘束の原因となるBPSD（認知症の周辺症状）の発現に繋がらない様に、利用者の想いに寄り添うケアの実践に努めている。</p>	<p>身体拘束に関する研修は、年に1回、定例会議開催時に定例研修として実施している。また、日頃は身体拘束防止マニュアルに沿って意識してケアに取り組んでいる。そうした中で身体拘束に該当しそうな事例があれば、定例会議等で話し合い、検討している。玄関は、夜間以外の日中は施錠していない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の年間行事計画の中に組み込んでいる施設内研修で虐待について施設内研修で学び、虐待のない介護を学んでいる。また、業務の忙しさから利用者への対応が後回しにならないように機会を設けてはお伝えしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己学習や書籍より権利擁護に関する制度を学び、管理者より職員に日常の場面で話し合いの場を設ける事で活用できる様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、専門用語は使わずゆっくりと話をし、理解・納得を得られるようにするとともに、契約内容に変更が生じる際には、出来るだけ速やかに書面にて説明を行い、同意を得られるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族様へ配布する広報（なごみだより）にて不明点や相談について掲示すると共に、ご家族の来所時に聞き取りをする他、適宜アンケートを実施するなどを行い、それらの意見や要望を反映できるように努めています。	利用者家族からの意見や要望は家族の来所時等に聴き取っている。事業所の広報誌においては意見等を促す文言を記載している。また年に1回、無記名形式でのアンケートを実施し、意見等が出やすくなるための取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	日常よりスタッフとのコミュニケーションを図ることに加え、ちょっとした空き時間に話を聞いたり、月1回の会議では全スタッフの意見(当日出席できない者は口頭や書面にて伝える)を聞き反映させています。	日頃の勤務を通じて管理者に意見等をしやすい環境づくりに努めている。また、定例会議で全職員に対して意見の聴き取りを行っている。欠席する者にはあらかじめリーダー職員にラインやメモで意見を伝えることを習慣化している。職員の負担軽減に関すること、薬の服用の方法など、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃から機会があればスタッフとのコミュニケーションを図ると共に、必要に応じて随時全スタッフとの個別面談を行い聞き取りをし、ストレス等の軽減を図っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、各自最低1回は研修し、また毎月1回を目標に施設内研修を行いスキルアップを図っています。またOJTを日常より行いながら日々のケアに従事するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の施設会に加入や介護相談員の受け入れをしています。また、管理者は同業者と交流を行いながら、自施設のサービスの質の向上に繋がるような情報収集を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に信頼関係を築く事は大切であり、しっかりと時間を設け、本人に寄り添いながら、傾聴、聞き取りながら少しでも不安の解消や要望に実現に向けてると同時に信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や特に入所後については、可能な限りご家族との信頼関係の構築を深めるために、気持ちに寄り添い、傾聴に努める事を実践してます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用が開始する前から、インタビューやアセスメントを十分に行い、ニーズの理解に努め、サービス開始時点ではニーズを実践できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事をしっかりと把握し、出来る事については強制にならない様に注意しながら職員と共に行う事で、ご本人の今まで培ってきた習慣や日常生活の継続に努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を報告する等、連絡を密にし、行事に参加していただくなど、少しでも本人と家族の今まで培ってこられた絆を大切に出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係で面会制限等が行われる中で、少しでも馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話にて会話して頂くなど工夫しながら実践しています。	利用者の馴染みの人や場については、日頃のケアの中で聴き取ったり、最初のアセスメントで確認している。近隣であれば、商店、喫茶店、墓など可能な範囲で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナの関係で自身の居室で過ごされる時間が増えている事も事実ですが、可能な範囲でスタッフがお手伝いしながら利用者同士が関わり合いながら共同で作業が出来るような物事の発掘に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、何かご相談に乗れることや、お話を伺ったりしながら、今までの関係性を大切に出来るように努めています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言語によるコミュニケーションに加え、非言語のコミュニケーションからも、本人の気持ちに寄り添いながら思い・希望等の聞き取りに努め、信頼関係の構築に努めています。	利用者の思いや意向は、日々のケアを通じて聴き取ったり、その人の表情や仕草などから、複数の職員の意見を合わせて判断している。利用者の思いや意向がわかれば、介護日誌に記入して申し送ったり、定例会議に諮り、希望等の実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	情報収集に日頃から努め、ご本人やご家族に加え、関係があった方から情報収集出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方や、心身状態、有する力等を把握するために、気持ちに寄り添うと同時に、お一人毎のケア記録へ詳細に記入しスタッフ間の情報の共有を図っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについては、日常から本人の状態観察やヒアリング等より定期的の実施すると共に、ご家族が来所された時や電話連絡の際、月に一度の定例会議の場でスタッフと話し合い、その人の今の状態に合ったケアプラン作成をしています。	モニタリングは3か月ごとに実施している。家族からは電話連絡時や来所時に合わせて介護計画に関する要望等を聴き取っており、介護計画は定期的変更の他、心身の状況に変化があれば随時見直しを行っている。利用者や家族の意見を反映して作成した介護計画は家族に郵送し確認してもらうこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎に特に大切な事については詳細に記載する事に努めています。気づきや工夫などの情報についても情報共有に努め、ケアプランの内容に反映されるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス内容だけにとられる事なく、同行支援や介護タクシーなどを利用しながら本人や家族の変化するニーズに対応可能で、柔軟な支援に対応できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	従来からの地域資源の活用が、コロナの関係で薄くなっているが、地域資源の把握に努めたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週：往診医（内科）、歯科医、看護師の往診。往診医の内科以外の他科受診が必要な時は、往診医にて医療機関受診用の診療情報提供書を作成して頂いている。</p>	<p>毎週、協力医療機関（内科医）の往診があり、そのメリットから全利用者がかかりつけ医をその内科医に変更している。他科受診は基本的には家族が同行するが、家族の都合により管理者かリーダー職員が同行することもある。受診結果は何か変化がある場合に限り家族に連絡している。受診に同行した家族からはその結果を聴き取っている。また、受診結果等は日報に記録し、職員間で情報の共有を図っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常の介護ケアにあたる職員が気づいた情報や疑問は、往診医に連絡や相談を行うと共に、連絡や相談を実施するように努めています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、介護医療情報連携シートを活用するなど、早期に情報提供を行うと共に、ご家族様、医療機関との情報共有を密に行いながら、円滑な退院に結びつくように努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所作成の看取り指針に基づき、重度化や終末期前に話し合いの場を設け、ご本人、ご家族の意向が反映できるように努めています。また、スタッフとはマニュアルを作成し、チームケアに取り組んでいます。	利用契約時に看取り指針で重度化や看取りの際の事業所の方針を説明している。実際に終末期を迎える頃に、主治医や家族等の関係者を交えて、利用者や家族の意向に沿った対応に努めている。事業所で看取った実績はあるが、家族からの希望で入院治療を選択するケースがほとんどである。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて施設内で勉強会を実施するなどし、チームのスキル向上に努めています。他に、緊急連絡先も目につく場所に提示し、素早く対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難通路の確保・避難誘導介助・連絡・初期消火など年2回の昼夜訓練を行い、ハザードマップの確認に加え、地域の防災訓練にもあれば、参加したいと思えます。災害時の食品の備蓄を行い、定期的に備蓄内容を点検しています。	年に2回の消防訓練を実施している。うち1回は夜間を想定したものであるが、この2年間は消防署員立ち合いの訓練は実施していない。電話機のそばに掲示している連絡網には自治会会長や民生委員等も含んでおり、災害発生時には協力を得られる体制を整えている。概ね3日分の備蓄がある。備蓄リストを作成し、3カ月ごとに点検している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“ご本人が出来る事は自分でしてもらい、自分で出来ない事をスタッフが介助する”の考えを実践します。また言葉使いにおいても“ちゃん”付けやその方自身の尊厳を傷つけるような言葉使いにならないように注意しています。	年に1回は事業所の定期研修において、人権やプライバシーに関する研修を実施している。日頃から人権に関するマニュアルに従って、利用者の尊厳やプライバシーの確保に取り組んでいる。また、職員間で互いに声を掛け、注意し合える環境づくりに努めている。 個人情報等は事務所内の鍵付書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を構築し、話しやすい環境を作って、感情や意思の表出が出来、自己決定していただける雰囲気を作り心掛けると共に、自己決定された事については可能な限り意思を尊重できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、ゆったりとしたペースでご本人と関わり、“その人らしさを大切に”という当施設の理念に基づいた介護ケアを提供できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のプライドや意思を尊重するために、極力着る服を選んでもらう様に務めています。また整容、整髪等についても本人の意向を尊重すると共に、衛生状態を考え、髭剃りや身だしなみを重視するよう努めています。定期的に散髪もして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を生活の一部ととらえ、準備、調理・片付け等の過程でご本人が希望され、出来る事については、スタッフと一緒にしています。また食事内容についても健康状態を考慮した内容としています。	リーダー職員、サブリーダー職員が利用者の好みも反映させた献立を作成している。食材の買い出しは主に他部門の職員が行っている。月に1回程度はハンバーガーなど利用者のリクエストに応じた外食（宅配）をしたり、季節や行事に応じた食事を提供している。また利用者の能力に応じて食事準備を職員と一緒にしている。職員も利用者と一緒に同じ食事をしたり、家庭菜園で採れた野菜をみんなで味わうなど、利用者が食事を楽しめるような工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者特有の脱水や低栄養にならないように、水分管理や体重の管理を行うと共に、偏った食事やメニューにならないように努め、味付けの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔にすることは高齢者に特有の誤嚥性肺炎を防ぐ事にも繋がる為、毎食後の口腔ケアと共に、義歯は週2回薬剤で清潔を保持し、毎月2回歯科医による口腔ケアも実施していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設側の都合で安易におむつの使用を行うのではなく、可能な限りおむつの使用を減らすことが出来るように、決まった時間だけでなく、ご本人の排泄パターンに合わせて誘導するよう努めています。また排泄時の声掛けについては、本人のプライドを尊重するような配慮を心掛けています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、利用者に応じた声掛け、トイレ誘導を行っている。夜間は職員の誘導により居室内のポータブルトイレで排泄している利用者もいる。トイレ誘導の声掛けについては、利用者の尊厳を損なうことがないように注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方には、食事内容を考慮し、水分補給を勧め、腸管運動促進に繋がるような軽い運動も取り入れています。	/	/
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日や時間帯は決めてはいますが、状況に応じて柔軟に対応するように努めています。また入浴前にはその日の体調を考慮した上で入浴を行っています。	基本は火、木、土のうち週に2回（夏季は3回）入浴できる。午前と午後の日中の時間帯に限定しているが、希望により夜間等の入浴も可能である。入浴を拒否する利用者には、声掛けする職員や時間を変えて対応している。浴槽の湯は利用者ごとに入れ替えている。利用者の使い慣れた石鹸やシャンプーの使用ができる。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋がるように、日中は可能な範囲で体を動かして頂く機会を設けると共に、外気浴や散歩などを行うなどし、精神的にもリフレッシュを図れるように努めています。またその日の活気・表情などを見極め、必要に応じて休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を活用し、スタッフ全員がいつでも確認できるようにしています。特に服薬内容が変更となった場合には、業務日誌等に記入する事でスタッフに周知するようにしています。毎月1回薬剤師が来所し、利用者の体調の変化を報告し、薬の相談にのってもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や、趣味、趣向などを考慮し、その方に応じた役割など見つける事が出来るように努めると共に、単調な日々とならないように生活にメリハリをつけるように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの関係で今までと同様にとはいきませんが、可能な範囲で天気の良い日は、散歩や外気浴をして頂いたり、スーパーやコンビニに買い物に行けるように努めると共に、施設の年間行事の中に外出を組み込むことで普段とは違う場所へお連れ出来るようにしています。	日頃は天気の良い日に事業所から200～300メートル離れた公園まで散歩している。また、月に1回程度は、喫茶店や買い物に出かけている他、3～4カ月ごとに花見やブドウ狩り、カラオケ、スーパー銭湯等へ外出している。また、年に1回は日帰り旅行に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理については状況に応じて、本人やご家族と話し合った上で管理方法を自身で行うのか、一部預かるのかを決めています。買い物や、利用店に行った際、ご本人にもお金を渡して支払いをしていただき、お釣りも直接もらえるように努めています。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の希望を尊重すると共に、スタッフからご家族への報告の際にも、ご本人と電話していただけるよう努力しています。個別に携帯電話を所持されている方もおられます。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関に季節の花やリビングには、利用者さんが自ら作成された季節感溢れる創作物や、雛人形等を置き、四季を感じれるような取り組みを行っています。また、環境面でも快適に過ごせるように考えています。また、清掃や消毒も踏まえ清潔保持にも努めています。</p>	<p>木造住宅を改修した事業所であるため、自宅で生活しているような落ち着いた感覚で生活できる雰囲気が感じられる。食堂と居間が別室となっていることもメリハリのある生活環境づくりに役立っている。玄関や居間には利用者が製作した作品を展示し、季節を感じられるような空間づくりに努めている。日頃の清掃、消毒なども怠らないようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>決まった場所ではなく、いつでもどこでも自由にしていだけるような雰囲気作りに努めています。また個々のプライバシーが配慮されるように努めています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>少しでも落ち着いて、穏やかに過ごして頂けるように、ご本人が使用していたなじみの物をご自宅からご持参して頂いています。居室は常に清潔と整理整頓を心がけています。</p>	<p>居室にはエアコン、ベッド、洋服ダンス、カーテン、電灯が備え付けとなっているが、利用者の使い慣れた家具等を概ね自由に持ち込むことができる。ベッド等の配置は利用者の意向に沿って決めている。ベッドを使わず畳に布団を敷いている利用者もいる。ドアには利用者の顔写真を入れた手作りの額を飾っている。居室の清掃やエアコンの室温管理は職員が行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所の表示や物の配置を工夫しながら、安全かつ、できるだけ分かりやすい表示を行うなどの工夫を行い、自立した生活が送れる事に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は生き活きと働けている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	